

事業所名： グループホームたのはた 虹の家

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホームたのはた 虹の家		
所在地	〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18		
自己評価作成日	令和4年9月17日	評価結果市町村受理日	令和4年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 保健・医療・福祉の機能が集中する敷地にあり、スムーズな連携体制がとれ安心して生活ができる環境にある。 * 海の幸、山の幸に恵まれ、そこから季節を感じ生活できる環境にある。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action.kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、村の中心の高台にあり、隣接して役場・診療所・保健センター・地域包括支援センター・系列の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターと障がい者の生活支援施設がある。行政、医療、保健福祉の施設が集約されていることにより、情報の共有や役割分担などが整っており、災害時のみならず通常でも村民の頼りになる場所となっている。グループホームに、診療所の医師が月1度訪問診療に訪れており、利用者の病状によっては家族への適切な説明と助言もあり、利用者・家族・事業所の心強い存在となっている。デイサービスセンター、生活支援ハウス、グループホームが床続きに一体的にあることで、住民やサービス利用者がそれぞれの施設の機能を知ることができ、介護施設の周知にも役立っている。利用者や家族からの日常的な支援を通じて把握できる思いや意見に加え、毎年実施している「利用者・家族アンケート」により、利用者や家族の要望や意見を確認し支援に役立っている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目につくところ(介護員室)に掲示し、日々意識をしながら生活支援をしている。	基本理念「これからの人生燦々と」を柱として、運営理念と「健康 清潔 安心」をキーワードに掲げ、利用者のこれまでの生き方を踏まえ、利用者がこれからの人生をお互い笑顔で暮らしていけるよう支援している。理念は職員に定着しており、見直しの予定はない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も感染症予防により地域とのつながることが出来ていない。現在は寿生会広報は休止中のため、地域とのつながりも難しい状況となっている。	事業所は、役場や診療所、保健センター等行政の中心地に隣接し、住民からは頼りになる場所としての信頼が寄せられている。コロナ禍以前は地域の祭り、花火大会の見学、保育園や小学校との交流等が盛んに行われており、コロナ禍収束後の再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	田野畑村認知症カフェを活用し地域貢献していたが、感染症対策のため今年度も中止となり行っていない。相談を受けた際は貢献できるような体制を整えているが、コロナ禍もあり相談等はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を書面会議にて行い、入居者の状況や活動を報告している。会議で取り上げられた事項に対し、メール等で助言や意見等をいただき可能な場合は実行している。	コロナ禍以降、会議は年6回全てとしている。地区の婦人部長、有識者、利用者代表、家族代表、地域包括支援センター、村担当者を委員とし、入居者の状況、行事等について報告するとともに、「書面会議による回答書」により意見を伺っている。委員から「事業所の感染症対策を教えてください」などの意見が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の書類を送付し状況報告をしている。地域ケア会議が開催された場合は管理者が出席し必要に応じ相談を行っている。それ以外でも必要時に随時連絡を取れる体制としている。	事業所が公設民営で設置されていることもあり、設備や建物の修繕などで、介護保険担当課はもとより健康福祉課とも日常的に交流し指導・助言を得ている。また、身寄りのない方の身元引受人探しなどの課題があれば、担当課と協議して対応していただくなど、相互の緊密な連携、協力関係が確立されている。	

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束はしないでケアを行うことになっており、その意識のもと日々支援している。3ヶ月に1回身体拘束委員会を行い、身体拘束と思われる事例を再確認している。必要に応じ都度職員で話し合っている。必要時センサーコールを設置し安全且つ拘束しないケアに努めている。	職員全員が参加し3か月に一度委員会を開催し、身体拘束をしないことを確認するとともに事例検討を行っている。「歩けない利用者で唾を吐いたり、近づくに向かってくる方」「夜中歩き回り他の利用者の居室に入る方」などの事例検討を通じ、利用者の安全への配慮に対する職員の意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年内部研修をしている。入浴時などに、日常業務の中で身体に変化等ないか確認している。皮膚状態をみて間違った対応をしていないか再確認する場合もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年内部研修をしている。現段階で個々の必要性の話し合いはしていないが、必要時には法人内で相談に乗っていただける体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時や入居前に見学して頂いたり、入居前後問わず双方で思い違いないように心がけて説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情窓口を設置している。今年度は利用者・ご家族アンケートは冬季に予定している。その他にも面会時や電話連絡等話しやすい環境づくりに努めている。結果は職員間で共有、推進会議で報告し、運営に反映させている。	利用者からは日常会話等から、家族からは面会や電話で意見要望を聞き取っているほか、利用者・家族を対象に毎年「アンケート」を実施し、利用者からは食べものや外出の他、「宝くじの買いに岩泉に行きたい」「銀行に行きたい」との希望が寄せられている。アンケートで把握した入浴・食事等の希望等について会議で話し合い、職員で共有して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員の意見等を聞き働きやすいように業務改善を行っている。法人として「しごとカイゼンシート」を作成、ポストを設置し職員の意見を反映させる体制を取っている。	職員から体調や病気、業務の負担などを聞き取りながら勤務時間や体制を変更したり、記録方法を変更し書類作成の負担を減らし、入居者への関わりを増やしている。必要と判断した案件は、複数の施設を統括する所長に報告・相談している。	

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長・副所長へ管理者・介護副主任より必要と判断した案件は随時、報告・相談している。働き方や体調に考慮した体制が少しずつ進んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修やオンライン研修に参加する機会がある。参加できなかった人は、報告・回覧などをし情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議が開催される場合は可能な限り参加している。コロナ過による事業運営等、情報交換をしサービスの向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後に傾聴し、希望に添えるような情報収集を行っている。また、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点ではほとんどの方が介護サービスを受けている事が多い。介護度により特養の申し込みも済んでいる方も多いが、申し込みをしていない方は身体・認知機能の状態をみながら必要に応じ特養の説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合った行事、行事の準備、食べ物のごしらえや保存方法を聞きながら一緒に行っている。本人の保たれている能力を活かし茶わんやお盆拭き、掃除などができる機会をつくっている。		

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2~4回の家族通信や面会時に近況報告、相談は必要時に電話対応をしている。いつでも要望等を聞ける体制にあり、共に支えるよう努めている。感染症予防のためオンライン面会もできるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の理美容院を利用している。一部の利用者は公共施設の利用できるよう支援しているが、感染症予防のためほとんど外部との関係が難しい状況となっている。	地域社会での利用者の関係性は、関係者から情報を得たり、本人・家族から話を聴いて把握している。地域との関りを途切れることがないよう努め、いつも通っている理髪店に出掛けたり、コロナ禍で頻度は減っているものの、時には食材購入時にも一緒に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状況、また変化等あった際、パソコンにケース入力し申し送り等で職員間で情報共有を図り、中立な立場で支援に努めている。食器を洗う・拭く、車椅子を押す、体調不良時に声を掛ける等、入居者同士が支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が遠方の方が多く、サービス終了後は相談や支援はほとんどない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、行動、表情をよいくみ取るよう心掛けています。また、入居期間が短い利用者が多く日々の会話から思いを聞き取るようにしています。更に必要に応じ、その思いをご家族に伝えるようにしています。双方の意見が違う場合は、中立な立場をとっている。	思いや意向を話せる利用者は6人、うまく話せない方は3人いる。うまく話せない方は、動作や表情から読み取っている。入浴時、職員と利用者が1対1になりリラックスした時や居室で一人いるときに、好き嫌いなどの本音を聞くことができる。読書の好きな利用者は図書館の利用を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、他でサービスを利用している場合には情報を頂くこともある。また、日常生活から得ることもある。更に訪問者から何気ない会話で得ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有、計画に沿った記録を含め、細かく記録することで情報把握に努めている。		

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、カンファレンスを行い、現状確認・必要・改善等の意見を出し合い、継続、変更を行っている。”出来る事”、”今の暮らしをどう楽しくできるか”を考え、計画を立てている。	アセスメントに基づきプランを作成し、家族の了承を得て支援している。担当者は日々の記録などに基づき毎月モニタリングを行い、カンファレンスは職員全員で行っている。6か月毎に毎月のモニタリング結果をまとめプランの評価を行い、本人・家族の意向を確認した上で、管理者、主任介護士、担当者で見直している。入院や要介護度の変更など、状況に変化があった場合には、その都度計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化等気付いた際は、記録をし、重要事項は日誌に載せつつ申し送りを行い、カンファレンス、又は随時情報共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿った対応をしている。感染症対策や利用者の重度化により普段買い物をする機会がほとんどない。なじみの美容室に施設へ来てもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪の時、施設へ来ていただく事もある。感染症対策により外出が制限され地域資源とのかかわりが難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	令和2年度より、かかりつけ医が田野畑村診療所の医師の場合は訪問診療を行い状態把握をして頂いている。時間外でも要請があれば往診して頂いている。	協力医の田野畑診療所には、入居前から8名が受診し、入居後1名がかかりつけ医に変更している。診療所の月1回の訪問診療を利用している。専門科には家族付添の受診となるが、現在受診している利用者はいない。家族には、健康状態や薬の処方が変わった時に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている同法人内の看護師が状態を把握し、相談や支援をしていただいている。		

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の相談機関等と必要に応じ電話をするなど情報交換に努めている。入退院時は密に情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	色々な状況が想定できるので、早い段階での話し合いは行っていない。そのような状況になった、あるいは状況になりつつある時に医師、家族、本人、事業所で相談しそれぞれが納得のもと、チームで支援に取り組んでいる。アンケート方式でその時の意向を本人より聞いている。	入居に際し、看取り指針で法人としての対応を説明している。症状等に変化があり、緊急時の対応や重度化に向けての話し合いが必要となった場合には、指針や看取りについて改めて説明している。現在、看取りを希望している方はおらず、系列特養や特養ショートへの移し替えや入院となっている。職員のほとんどが看取り経験者で、希望があれば看取り対応も可能である。隣接する田野畑診療所医師の支援が心強いとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修を実施した。参加出来なかった職員は書面で周知した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度も感染症対策等により、内部外部も含めほとんど訓練できていない。地域防災協力者の体制がある。	避難訓練は、法人全体で各事業所が参加し、消防の立会のもと年2回(5月と11月、夜間想定1回)実施している。行政区長、地区会長を始め近隣住民6名が地域防災協力者となっており、コロナ禍前は訓練にも参加してくれていた。事業所は高台にあり、ハザードマップで指定地域とされていない。災害時に備え、ランタン、電池、非常食(米・水・レトルト・缶詰等)を備蓄している。	事業所がある場所は、災害時には村の福祉施設や住民の避難場所としての機能を担う住民の安心の拠り所です。よって、発災時には利用者の安全確保に加え、住民の支援場所になるという意識を日頃から持たれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報他入居者や外部の方々の目につかないところに置いている。又、書類を捨てる際にはシュレッダーにかけている。本人の意思を確認してできる限り意向に沿えるよう心掛けている。また、利用者に対しても声掛けが不適切なケースがあり、内部研修を行いう、職員間で注意し合うなど改善に努めている。	人生の先輩として、言葉遣いに気を付けている。家族や友達と同じようにならないように注意しながら、入居者に分かり易い地元の言葉で会話している。権利擁護や尊厳に関する研修では、不適切な言葉遣いが無いか話し合うことがある。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望を出しやすいような会話を心掛けている。希望・要望はアンケートを利用し、引き出す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り沿うようにしている。遠慮もあるのか個人の希望が少なくなっているが、日常会話からニーズを引き出し希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には衣類を着替える、その際には本人の好みを聞きながらコーディネートの手伝いをしている。髭剃りをしたり入浴後、クリームをつける方もいらっしゃる。敬老会等の行事の際に女性利用者は化粧をするなどおしゃれを楽しめるよう支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会にはその方の食べたい物を提供している。下ごしらえ等ができる利用者の方と一緒にしている。好き嫌いや体調等の状態により食事形態を変更するなど、利用者に合わせた食事の提供を行っている。	食事の一連の作業は主に職員が行っているが、利用者の希望や能力に応じて、買い物・調理・食事・後片付けなどを一緒に行っている。美味しいものを楽しく食べようと、村の方々から頂いた夏野菜を献立に取り入れたり、行事には、お寿司屋さんから弁当を取るなどしている。「すいとん」「あんこはっと」が好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態を考慮したり、医師の指示のもと一人一人に合わせた形態や量を提供している。管理栄養士よりメニューのチェックを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄を行っている。忘れていた利用者には声掛けを行ない、口腔内の清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェックを行い、状況把握に努めている。定期的且つスムーズに排泄できるよう水分摂取・服薬・運動・散歩・乳製品の摂取等をしている。動きを見ながら誘導する方もいる。	夜間にポータブルトイレを利用する方やオムツ使用者も居るが、全員トイレを利用している。入居者の排泄チェック表で状況の把握に努め、習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。失禁する方は少ないが、その場合でも周囲に悟られないように誘導している。	

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、状況把握に努めている。定期的且つスムーズに排泄できるよう水分摂取・服薬・運動・散歩・乳製品の摂取等をしている。動きを見ながら誘導する方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみながら2~3日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日入浴できる。入浴を好まれない方は声かけの仕方や時間をおいて声かけするなど利用者へ合った対応を行っている。	一番湯がいい、熱いのがいい、最後がいいという入居者の好みを聞きながら入浴を支援している。入浴を洗る利用者には声掛けの仕方や時間を変えたりしている。入浴中は、昔の話や生活の話などを職員としながら、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝・昼寝とも自由にできる環境にある。心地よく休めるよう日中の活動に配慮している。昼夜逆転傾向のある方は活動・精神を総合的に把握し原因を探りアプローチしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や個人台帳で確認できるようになっている。朝・昼・夕に個々で分けて保管、服薬時では傍で見守り、呼名・朝昼夕の薬であると声に出し渡す、確認の徹底を行っている。変更の際には日誌や掲示板入力をし、申し送りも周知となるまで続けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で役割が持っている方もいる。買い物、散歩、レクを楽しむなどの支援をしている。晩酌を行う方や読書が好きな方など施設での生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の感染症状況を考慮し、利用者のニーズを念頭に付き添い外出支援を行っている。利用者の重度化により、一部の利用者は散歩や買い物の頻度はほとんどない。家族が遠方、高齢化により家族との外出も現在は無い。	地域の感染症状況に応じて外出支援を行っている。日常的な外出として、買い物や銀行でお金の引き出し、散歩に行っており、晴れた日には時々敷地内を散歩している。また、ドライブでは、村内巡りや海を見たり、お花見に出掛けている。	

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本小遣いはGH管理としている。必要時にはいつでも使えるようにしている。支払い能力のある利用者はご本人が管理し買い物など行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	宅配が届いた後や連絡で電話をした際、本人と話をしてもらったり、近況報告をすることがある。ご家族から電話がくる方もあるが、そうでない方はこちらからアクションをおこす努力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の整理整頓に努め、季節を感じられる飾りつけに配慮している。トイレやお風呂等わかりやすいよう表示している。装飾担当職員がその時期に合った飾りつけや趣味活動で作ったものを飾るなどの対応を行っている。	数年前に畳の小上がりを撤去し、広くなったホールにはテーブルがゆったりと配置され、壁には、利用者の塗り絵などの作品、職員紹介、どんぐりや栗など季節の飾りが施されている。南向きの窓からは暖かい光が差し込み、エアコンとパネルヒーターにより空調は心地よく調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースでテレビを観たり、談笑されたり、自室で過ごされたりと利用者の好きなように過ごしている。R1.9に小上がりが無くなったことでゆったりとした共用空間ができた。広報や雑誌を置いたりし自由に観覧できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、本、DVD等を置いている方もいる。利用者により読書等を出来る環境をつくり、一人ひとり居心地よく過ごすことのできる環境にしている。	居室には、ベッド、エアコンと十分な収容力のあるクローゼットが備え付けられており、入居者は、本人の好みでDVDプレーヤーやCDプレーヤー、ラジオ、テレビを持ち込んだり、好きな歌手や天皇家の写真を壁に飾ったりしている。本の好きな方は居室で静かに読書して過ごしている。入居者担当の職員は、入居者の意向を確認しながら部屋を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室の表示、手すりの設置、台所が共有スペースから見える場所にある。履物の工夫や杖を使用しなくても移動できる環境。掃除用具等、定位置に置かれている。		